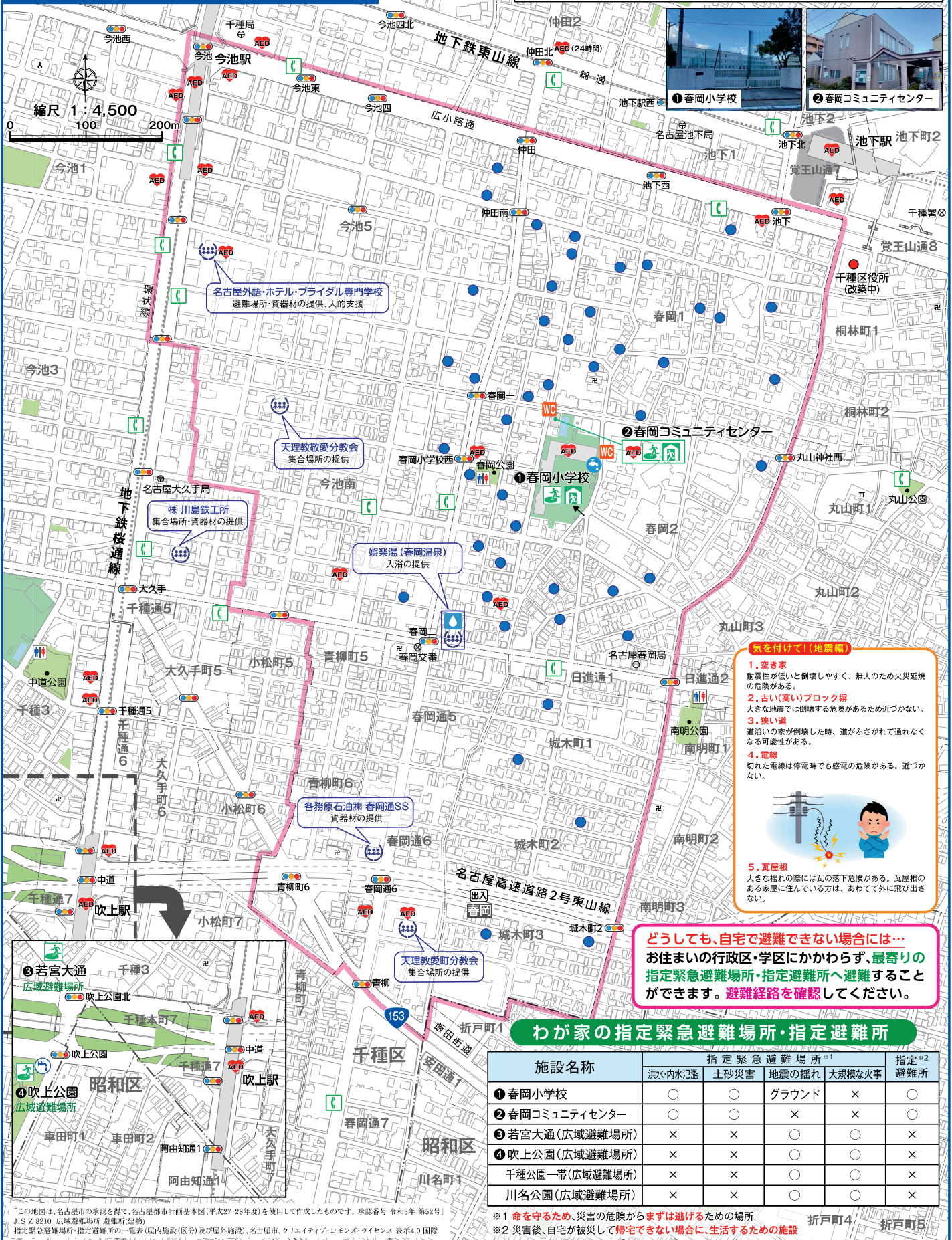


千種区春岡学区

災害避難行動マップ



千種区 春岡学区

世帯：6,939 世帯 人口：10,923 人 面積：0.735 km² ※令和5年1月1日現在の世帯数と人口より

春岡学区の災害リスク(千年に一度レベルの最大クラスの場合)

地震	震度：6弱(西部は6強) 液状化：広範囲でリスク高い 津波：なし 地震火災延焼：広範囲でリスク高い
大雨・台風	内水氾濫：広範囲で0.3m未満(一部で1.0m程度)の浸水 洪水：なし 高潮：なし
土砂災害	警戒区域：なし



↑詳細は春岡学区の
地区防災カルテへ

春岡学区ぼうさいポータルサイトをチェック！

春岡学区では、**防災に関して役立つ情報をまとめたポータルサイト**を新たに作成しました！
ぜひ、定期的にチェックしてみてください♪
<https://bousai.haruoka.net>



↑春岡学区ぼうさい
ポータルサイト

災害時の自助・共助の重要性

公助(行政の救助)には限界があり、1人でも多くの方の命を守るには、**自助や共助(住民同士の助け合い)の取り組みが最も重要**とされています。
「誰かが何とかしてくれる」考えは危険です。「**住民一人ひとりが主役**」
「**自分たちのまちは自分たちで守る**」意識で、**災害に立ち向かいましょう！**
(指定避難所も、避難者自身による「自主運営」が原則です)

持出品は3日分、備蓄は7日分を目安に、家族の人数分を！

備蓄や持出品は、**生きるために必要**です！
下の表を参考に、ご自身や家族に必要なもの・
数量を用意しましょう！

備蓄の詳細は、
防災ガイドブック
P8～10で！



項目	携帯	持出	備蓄	項目	携帯	持出	備蓄	項目	携帯	持出	備蓄
飲食				ヘルメット				避難生活			
携帯食・非常食	○	○	○	防犯グッズ(笛など)		○		スリッパ			○
水など(ひとり1日3ℓ)	○	○	○	作業用手袋		○		歯磨きセット		○	○
救急セット	○	○	○	カセットコンロ・ボンベ		○		カセットコンロ・ボンベ		○	○
常備薬・お薬手帳	○	○	○	ヘッドライト・懐中電灯	○	○	○	ラジオ	○	○	○
生理用品	○	○	○	雨具・防寒具	○	○	○	電池・モバイルバッテリー	○	○	○
簡易トイレ(1日5回)	○	○	○					紙皿・食品用ラップ			○

←地震後はトイレが流せないことも！

避難行動は「在宅避難」が基本です！

避難とは、「難」を「避ける」こと。**自宅が安全で、留まる・生活することができたら、指定緊急避難場所や指定避難所へ行く必要はありません！**

- 避難施設の収容人数には限りがあり、全員が利用することはできません。
- 指定避難所は、快適ではありません。自宅の方が快適です。
- 災害後も自宅で生活できるように、**家具転倒防止**や**備蓄**を進めましょう！

地震への備えと対応

日頃の備え

- 家具の転倒防止などの耐震対策
- 食料・飲料・簡易トイレなどの備蓄・非常持出品の準備
- 隣近所と顔の見える関係づくり
- 災害が発生した場合のシミュレーション
 - ・自宅内の棚や窓ガラス等から身を守る場所はどこか
 - ・自宅周辺の危険物・高い場所・広い場所は何かあるか
 - ・家族の集合場所や連絡方法(災害用伝言ダイヤル171やSNSなど)を確認

家族が離ればなれするとき

家族の
集合場所

激しい揺れ (あわてない！冷静に)

- 机の下などで頭を守り揺れがおさまるまで待つ
- 安全に消せる場合は火を消す
- 家具や家電の転倒や落下、ガラスの破片などに注意



提供：効果的な防災訓練と防災啓発推進会議

揺れがおさまった

- 火の元の確認、電気のブレーカーを落とす、ガスの元栓を閉める。出火したら逃げ口を背にして初期消火
- 家族の安否・自宅の被害状況を確認
- 非常持出品の確認、万が一の避難の準備



組内で安否確認・救助

- 隣近所に声をかけて安否確認
- 生き埋め者の救助活動・ケガ人の手当
- 助けが必要な場所に応援を求める



一時集合場所へ集合 (安否情報を持ち寄る)

- 町内の安否確認、被害情報の共有
- 救助活動や避難支援の協力



自宅が危険なら… 指定緊急避難場所へ避難

ブロック塀や建物の倒壊に注意し、安全なルートを通ってできるだけグループで避難
表のマップを参考に記入しましょう！

余震が続くとき

最寄りの
避難先

- 小学校のグラウンドなど屋外の広くて安全な場所

火災が発生したとき

最寄りの
避難先

- 広域避難場所など火災の延焼から身を守ることができる場所

震災の危険解消

自宅での生活が可能か

在宅避難

指定避難所

参考

自宅が危険な
状況とは？

- 自宅が傾いたり、亀裂が入っていて倒壊しそう
- 家中に物が散乱していて動くとき非常に危険

自宅外へは原則「徒歩避難」。車は使わないで！

車の渋滞、道路の破損、停電による信号の滅灯など、車での避難には障害がつきものです。**自宅外への避難は、原則「徒歩」にしましょう！**

【東日本大震災での主な事例】

- 車の台数や通行止め地点が多く、渋滞が発生した
- 道路のひび割れや液状化、マンホールの隆起により、通行できなかった

出典：H23東日本大震災における避難行動等に関する面接調査(住民)／内閣府、気象庁、経済産業省